

資料提供

平成26年9月9日 18時 30分
 照会先：保健予防課健康危機管理対策室
 担当：室長補佐（総括） 柴田 隆之

デング熱国内感染症例の発生について(第二報)

1 概要

本日、新たに、茨城県内で1名のデング熱患者が確認されましたので、お知らせします。当該患者は最近1ヶ月以内の海外渡航歴がなく、9月3日に都立代々木公園に出かけたことが確認されています。患者は入院中ですが、快方に向かっています。

2 患者について

- (1)年齢・性別
 ・居住地 :10歳代(高校生), 男性, 県南
- (2)海外渡航歴 :最近1ヶ月以内なし
- (3)蚊の刺咬歴 :公園で蚊に刺されたかは不明
- (4)発症・受診 :9月6日発症 9月8日取手市内の医療機関を受診し入院
- (5)症状 :発熱, 腰痛, 食欲不振, 発疹など
- (6)検査・診断 :9月9日に医療機関から竜ヶ崎保健所へ連絡
 同日 県衛生研究所の検査で陽性
 ※9月1日付けの厚生労働省からの通知により, 9月2日以降は県衛生研究所の検査結果をもって, 感染の有無を判断することとなっております。

【参考】デング熱の県内発生状況

(人数)

| | 平成21年 | 平成22年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 患者数 | 2 | 1 | 1 | 3 | 5 | (海外) 2 |
| | | | | | | (国内) 2 |

※平成25年以前は全て海外感染事例

※平成26年は本事例を含め平成26年9月9日現在

3 県内の対応

- ・ 県民からの相談は、県内の各保健所および保健予防課で受け付けています。
- ・ 県内の医療機関へは患者発生状況について情報提供し、疑い患者が受診した場合には保健所へ報告していただくよう、周知しています。

4 デング熱について

(1) 概要

- ・ 蚊が媒介するデングウイルスによる疾患で、アジア、中東、中南米、オセアニア等の世界の広範な地域で流行しています。
- ・ ヒトが感染してもデング熱を発症する頻度は10～50%。
- ・ ヒト(患者)—蚊—ヒト という経路で蚊を媒介して感染し、ヒトからヒトへ直接感染することはありません。

(2) 症状

- ・ 潜伏期間は多くは3日～7日とされ、その後、発熱、発疹、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状がみられる。
- ・ 通常の患者は発病後2日～7日で解熱し、そのまま治癒する。
- ・ まれに重症化して、出血傾向やショック症状がみられることがある。

(3) 治療法

- ・ 特異的な治療法はなく、対症療法をおこなう。
- ・ 現在のところ、有効な抗ウイルス薬はない。

(4) 予防法

- ・ 国内ではヒトスジシマカ(主に昼間吸血する習性がある)がデング熱を媒介する可能性があるため、蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。
- ・ 具体的には
 - ①長袖、長ズボンを着用するなど、屋外で活動する時には肌の露出をなるべく避ける。
 - ②虫よけ剤などを使用し、蚊を寄せ付けないように注意する。
 - ③室内も蚊の駆除を心掛ける。
 - ④蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。
(蚊は水辺に産卵する。下水溝、廃タイヤの中や水桶等人工的な環境でも産卵し増殖する。)